

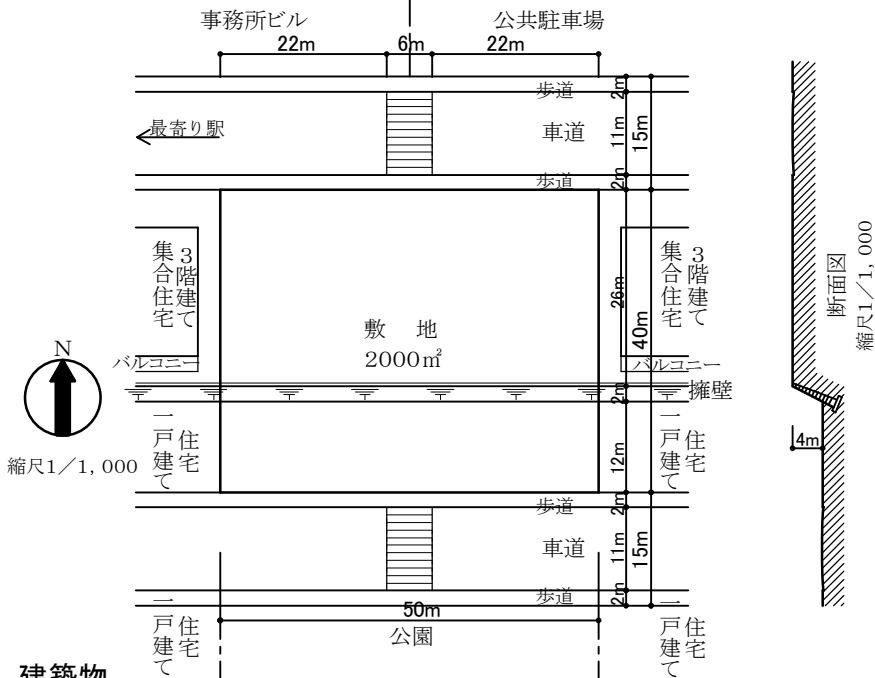
設計課題「小ホールのあるコミュニティセンター」

I. 設計条件

この課題は、ある地方都市の市街地に、広い世代の交流の場として、小ホールのあるコミュニティセンターを計画するものである。  
 施設については、利用者の利便性、ランニングコスト等に配慮し、地域の公共財産として価値あるものを目指すものとする。

1. 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。
- 敷地は、下図に示す位置に擁壁があり（敷地内での擁壁の切り取りは自由である。）、4mの高低差があるが、面する道路及び隣地との高低差はないものとする。また、歩道の切り開きは1箇所あたり6mまでできるものとする。
- 敷地は、第1種住居地域及び準防火地域に指定されている。また、建ぺい率の限度は60%、容積率の限度は200%である。
- 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- 地盤は良好である。
- 気候は温暖で、積雪についての特別な配慮はしなくてよい。



2. 建築物

- 構造、階数等  
耐力壁付きラーメン構造による鉄筋コンクリート造を主体とし、一部を他の構造種別との併用としてもよい。地下1階（南側道路と行き来する階を地下1階とする。）、地上1階建ての1棟の建築物とする。
- 床面積の合計  
塔屋を除く床面積の合計は、1,900㎡以上、2,200㎡以下とする。この課題の床面積の算定においては、ピロティ、バルコニー、屋外階段等は、床面積に算入しない。
- 設備  
空調設備は単一ダクト方式と個別方式の併用とする。、その他の設備（給湯・給排水衛生設備、電気設備、防災設備、エレベーター）については、適切に計画。
- 要求室  
下表の室は、すべて地下1階、及び1階に計画する。

| 室名         | 特記事項  | 床面積                                  |
|------------|---|--------------------------------------|
| 調理実習室      | ・4人に対し調理実習用キッチンセット1台を配置し、24人以上が学習できる。<br>・収納スペースを設ける。   | 特記事項により算定<br>午前10時開館、午後7時閉館<br>月曜日休館 |
| 工作室        | ・2人に対し工作机1台を配置し、20人以上が学習できる。<br>・収納スペースを設ける。  |                                      |
| 娯楽室        | ・和室とし、様々なサークル活動、会合などを行う。<br>・30人程度が利用できる。<br>・水屋、納戸、ロッカーコーナー等を設ける。  |                                      |
| 図書室        | ・一般閲覧スペースで約30人程度が利用できる。<br>・開架図書スペース、受付カウンター、図書作業室、児童閲覧室、レファレンスコーナー、新聞雑誌コーナーを設ける。   |                                      |
| 利用者更衣室     | ・男性用、女性用として2室を設ける。  |                                      |
| 音楽スタジオ     | ・数人のバンド練習に対応できる。<br>・前室、収納スペースを設ける。   |                                      |
| 多目的ホール     | ・演劇、映画、講演等を行う。<br>・観客席の天井高は、6m以上とする。<br>・いすは100席（可動式）以上とし、床は平坦とする。<br>・ステージ（奥行3m以上、高さFL+800mm）、いす収納庫、及び上部に映写室を設ける。<br>・いずれかのエントランスホールからホワイエを介しアプローチできる。<br>・必要に応じ、午後9時までの延長貸し出しを行う。 |                                      |
| ホワイエ       | ・多目的ホール観客の待合、休憩に利用する。   |                                      |
| 楽屋         | ・男性用、女性用として2室を設け、各々に便所を設ける。   |                                      |
| ホール倉庫      | ・多目的ホールに近接させ、大道具等の搬入に配慮する。  |                                      |
| エントランスホール1 | ・地下1階に設ける。<br>・上部に40㎡以上の吹抜けを設ける。  |                                      |
| エントランスホール2 | ・1階に設け、エントランスホール1との動線に配慮する。<br>・地域資料コーナー、作品展示コーナーを各20㎡以上設ける。<br>・休憩ラウンジを設ける。  |                                      |
| 管理事務室      | ・5人分の執務スペース、ソファ、受付カウンター等を設ける。   |                                      |
| 医務室        |   |                                      |
| 職員更衣室      | ・男性用、女性用として2室を設ける。  |                                      |
| 講師控室       |   |                                      |
| 喫茶室        | ・30人程度が利用できる。<br>・外部からも直接アプローチできる。  | 隔週月曜日休日                              |
| 設備スペース     | ・設備計画に応じて、電気・機械室、屋外設備置場等を計画する。<br>・上記の室に関連して必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。   | 適宜                                   |

|     |           |    |
|-----|-----------|----|
| 試験場 | 受験番号      | 氏名 |
|     | □□-□□□□□□ |    |

3. 屋外施設等

- サンクンガーデン（4辺の内、1辺は建物に面し、他は土中に面するものとする。）は、次のとおり計画する。
    - 地下1階の室に自然採光とリラクゼーションを付与する目的から設ける。
    - まとまったスペース（直径4mの円が1つ以上入るものとする。）で、50㎡以上（ピロティ、上部に屋根、ひさし等のある部分は算入しない。）とする。
  - バックヤードは、次のとおり計画する。
    - ホール倉庫に対し、大道具等の搬入を行う。
    - 地上に設け、トラック専用の進入路、駐車スペースを含め4m×12m以上を確保する。
  - 駐車場は、車いす使用者用として2台分、サービス用として3台分を地上に設ける。なお、車いす使用者用の駐車場は、幅を3.5m以上とし、建築物の主要な出入口からの距離ができるだけ短くなる位置に設ける。また、来館者用及び従業員用の駐車場については、近隣の公共駐車場を利用するものとし、考慮しなくてよい。
  - 自転車置場は、利用者用として50台分（1台あたり0.5m×2m程度）を設ける。
- （1）～（4）の「屋外施設等」は、床面積に算入しないものとする。

4. 計画に当たっての留意事項

- 建築計画については、次の点に留意して計画する。
  - 建築物はバリアフリーに配慮する。
  - 開館日、開館時間の差異に配慮する。
  - 建築物の環境負荷低減に配慮する。
  - 敷地の周辺環境に配慮する。
- 構造計画については、次の点に留意して計画する。
  - 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画。
  - 他の構造種別と併用する部分について、適切に計画するとともに、経済性にも配慮する。
  - 耐力壁等を設け、耐震に配慮する。
  - 部材の断面寸法を適切に計画する。
- 設備計画については、次の点に留意して計画する。
  - 空気調和設備、給湯・給排水衛生設備、電気設備、防災設備等を適切に設け、環境負荷及びランニングコスト低減に配慮する。
  - エレベーターを適切に設ける。

II. 要求図書

答案用紙I及び答案用紙IIの定められた枠内（寸法線は枠外でもよい。）に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要求図面（答案用紙Iに記入）

下表により、所定の図面を作成し（フリーハンドでもよい。）、必要な事項を記入する。

| 図面及び縮尺                   | 特記事項   |
|--------------------------|--|
| (1) 地下1階平面図兼配置図<br>1/200 | ① 地下1階平面図兼配置図及び1階平面図兼配置図には、次のものを図示又は記入する。<br>イ. 建築物の主要寸法（柱割り及び床面積の計算に必要な程度）<br>ロ. 建築物の出入口、室名等<br>ハ. 耐力壁等（凡例にしたがって図示し、凡例にないものを使用する場合は空欄に追加記入する。）<br>ニ. 設備シャフト〔パイプシャフト（PS）、ダクトスペース（DS）、電気シャフト（EPS）〕の位置<br>ホ. 設備計画に応じた主な設備機械の設置位置（ただし、屋上に設けた場合は屋上梁伏図、及び断面図に点線にて図示する。）<br>ヘ. 調理実習室、工作室、娯楽室、図書室、多目的ホール、管理事務室、喫茶室の床面積<br>ト. 駐車場（サービス用駐車場及び車いす使用者用駐車場）及びサービスヤード<br>チ. 駐輪場（台数を明示する。）<br>リ. サンクンガーデン、ドライエリア、その他空掘りの位置<br>ス. 断面図の切断位置<br>ル. 通路、植栽等 |
| (2) 1階平面図兼配置図<br>1/200   | ② 1階平面図兼配置図には、次のものを図示又は記入する。<br>イ. 1階の屋根、ひさし等となる部分<br>ロ. 吹抜けの位置  |
| (3) 屋上梁伏図<br>1/200       | ① 1階の屋上からの見下がり図とし、主要な大梁、小梁及びスラブは構造部材表の符号を明示する。<br>② 構造部材表に主要な大梁、小梁及びスラブの断面寸法を記入し、主要な部材が複数となる場合は空欄に符号・部材・断面寸法を追加記入する。なお、梁に鉄骨を使用した場合の断面寸法は、H-○×○のように記入する。<br>③ 設備機械を屋上設置した場合は、点線にて図示する。  |
| (4) 断面図<br>1/200         | ① 切断位置は、多目的ホールを含む南北方向とし、建築物の全体の立体構成がわかる断面とする。なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。<br>② 塔屋を除く建築物の高さ（敷地南側からの高さとし、平均地盤の算定は行わない。）、階高、天井高、1階床高、及び主要な室名を記入する。<br>③ 梁、スラブ、及び基礎の断面を図示する。<br>④ 設備機械を屋上設置した場合は、点線にて図示する。   |

2. 面積表等（答案用紙Iに記入）

- 地下1階、及び1階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。
- 建ぺい率（敷地面積に対する建築面積の割合）及びその算定式を記入する。

3. 計画の要点等（答案用紙IIに記入）

- 建築計画について、次の①～④の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
  - 建築物の外部動線について、配慮したこと
  - 建築物の内部プランニング、及び動線について、配慮したこと
  - 開館日、開館時間の差異について、配慮したこと
  - 敷地の周辺環境について、配慮したこと
- 構造計画について、次の①及び②の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
  - 一部に耐力壁付きラーメン構造の鉄筋コンクリート造以外を採用した場合の、部位と、構造種別、これらを採用した理由。または、単一構造とした理由
  - 耐震計画について、配慮したこと
- 設備計画について、次の①～③の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
  - 空調方式のランニングコストについて、配慮したこと
  - 設備スペース及び設備シャフトの配置計画について、配慮したこと
  - 防災設備計画について、配慮したこと
- 建築物の環境負荷低減（熱負荷の抑制、省エネルギー等）について、配慮したことを具体的に記述する。